

平成20年10月10日 (金)

川田龍平参議院議員事務所
松谷 清 様

環境省総合環境政策局
環境保健部企画課保健業務室

御依頼のありました資料についてですが、「環境保健サーベイランス調査」についての資料を提出致します。

環境省では、地域人口集団の健康状態と大気汚染との関係を調査するため、平成8年度から「環境保健サーベイランス調査」を実施してきています。本年4月に平成18年度の調査結果を公表したところでありますが、大気汚染物質濃度の高い地域ほど呼吸器症状有症率(発症率)が高くなることを示す結果は得られておらず、ぜん息有症率の変化と大気汚染物質濃度の変化との関連性に一定の傾向は認められておりません。

なお、文部科学省の実施している学校保健統計調査では、健康診断等で医師の診断によりぜん息に罹患しているとされた者を集計しており、神奈川県が実施している調査では、医師の診断によるものに加え、医師の診断ではなく日常の健康観察等により各学校が把握した者もぜん息として集計しているものと承知しているところであり、これらの調査は、疾病の原因追及を目的としているものではないことから、その調査結果については参考資料としているところであります。

別紙添付

H18年度 大気汚染に係る環境保健サーベイランス調査結果について

H20年4月25日

環境省総合環境政策局
環境保健部企画課
保健業務室

追記 by
松谷